

公表日：8月25日(火)

茨城の経済四期報〈茨城県の経済動向 平成21年4～6月期〉

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまでに県等で公表された当該分野の主要経済指標の数値変動をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析の範囲の中で、概観的にまとめたものです。

本県経済は、厳しい状況の中、一部に下げ止まりの兆しがみられる。

本県の最近の経済動向をみると、生産活動は急速な減少から下げ止まりへ移行している。消費は弱い動きで推移している。住宅投資は低調であるが、公共投資は前年水準を上回る。民間設備投資は、21年度上期は減少見込みとなっている。雇用・労働は依然と厳しい中にある。景気ウォッチャー調査による景況感は、家計動向関連DI、企業関連DI、雇用関連DIがいずれも横ばいを表す50を下回っており、引き続き下降局面にある。景気動向指数（CI）一致指数は、3か月後方移動平均で下げ止まりの動きがみられる。県民経済計算四半期速報による県内総生産の実質経済成長率（1～3月期）は、4期連続のマイナスとなっている。

景況等

- ・景気ウォッチャー調査6月実施による現状判断DIは、前期（3月調査）比16.3ポイント上昇して34.8となったが、横ばいを表す50を8期連続で下回り、引き続き景気は下降局面にある。業種別にみると、家計動向関連DIは8期連続、企業動向関連DIは9期連続、雇用関連DIは7期連続といずれも横ばいを表す50を下回った。
- ・景気動向指数（CI：平成17年=100）6月の一致指数は71.3となり、前月比+3.3%と上昇したが、3か月後方移動平均値の動向では、下げ止まりの動きがみられる。〈※国の景気動向指数（CI）6月の一致指数は88.0となり、前月比+1.0%と3か月連続で上昇している。〉
- ・県民経済計算四半期速報（平成21年1～3月期）の県内総生産（支出側）実質経済成長率は、前期比-1.3%（年率換算-5.1%）となり、4期連続のマイナスとなっている。〈※国の実質経済成長率（平成21年1～3月期）は、前期比-3.1%と4期連続マイナスとなっている。〉

生産活動 ……下げ止まり

- ・鉱工業生産指数（平成17年=100）6月は75.7（季調済）で前月比+3.6%と2か月連続で上昇したが、前年同月比（原指数）では-26.2%となり、16か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると4～6月期は、前年同期比（原指数）で-29.3%と、6期連続で前年水準を下回った。〈※全国の鉱工業生産指数6月は80.9（季調済）で前月比+2.3%と4か月連続で上昇した。原指数では前年同月比-23.5%となっている。四半期ベースでは前年同期比-27.8%と4期連続で前年水準を下回った。〉
- ・大口電力使用量6月は、前年同月比-19.8%と8か月連続で前年水準を下回った。四半期ベース4～6月期では前年同期比-20.7%となり、3期連続で前年水準を下回った。

消費 ……弱い動き

- ・大型小売店販売額6月は、前年同月比-0.0%とほぼ前年水準となった。四半期ベースで見ると4～6月期は、前年同期比-1.0%と3期連続で前年水準を下回った。百貨店販売額6月は前年同月比-20.4%と8か月連続前年水準を下回り、スーパー販売額6月は前年同月比+5.1%と4か月連続で前年水準を上回った。既存店ベースで見ると、大型小売店販売額6月は、前年同月比-6.9%と15か月連続で前年水準を下回った。〈※全国の大型小売店販売額6月は、前年同月比-5.2%と11か月連続で前年水準を下回った。〉
- ・自動車新規登録台数6月は10,044台で、前年同月比-10.9%と11か月連続で前年水準を下回った。貨

■調査から 調査から ■

物車・特殊車を除いた乗用車を前年同月比で見ると、軽乗用車は-12.0%、小型乗用車（2000cc以下）は-2.9%、普通乗用車（2000cc超）は-8.7%となった。四半期ベースで見ると4～6月期は、前年同期比-17.4%と4期連続で前年水準を下回った。

- ・二人以上世帯の勤労者世帯消費支出6月（水戸市）は、前年同月比-6.1%と2か月ぶりに前年水準を下回った。〈※全国の勤労者消費支出6月は、前年同月比-2.8%と4か月ぶりに前年水準を下回った。〉

民間設備投資 ……21年度上期は減少見込み

- ・法人企業景気予測調査4～6月期調査では、21年度上期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比-22.3%の減少見込みとなっている。21年度下期は、全産業で前年比-21.2%の減少見通しとなっている。21年度通期は、全産業で前年比-21.7%の減少見通しとなっている。

建設投資 ……住宅投資は低調、公共事業は前年水準を上回る

- ・新設住宅着工戸数6月は1,884戸・前年同月比-11.5%と6か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると4～6月期は、前年同期比-31.3%と3期連続で前年水準を下回った。〈※全国の新設住宅着工戸数6月は、前年同月比-32.4%と7か月連続で前年度水準を下回った。〉
- ・公共工事請負額から公共投資の動向をみると、6月は前年同月比+16.5%と2か月ぶりに前年水準を上回り、四半期（4～6月）ベースでも前年同期比+2.4%と2期連続で前年水準を上回った。

雇用・労働 ……雇用情勢は以前厳しい中にある

- ・新規求人数6月は、前年同月比-20.1%と23か月連続で減少し、新規求職者数6月は前年同月比+34.6%と8か月連続の増加となっている。新規求人倍率（原数値）は0.66倍と6か月連続1倍割れで推移している。
- ・雇用保険受給者実人員6月は20,349人で、前年同月比111.0%と7か月連続増加となっている。
- ・常用労働者の現金給与総額（事業所規模30人以上）5月は、対前年同月比-4.3%と6か月連続で前年水準を下回った。きまって支給する給与（事業所規模30人以上）は、対前年同月比-4.3%と5か月連続で前年水準を下回った。

前回（平成21年1～3月）の茨城県の経済動向概況
本県経済は、引き続き悪化している。

※ 参考：最近の国内経済の動向 （内閣府「月例経済報告」平成21年8月11日）

総論（我が国経済の基調判断）

景気は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・輸出、生産は、持ち直している。
- ・企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、大幅に減少している。
- ・雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
- ・個人消費は、このところ持ち直しの動きがみられる。

先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。